



# 手書きの棋譜

## 渡辺明

対局の棋譜は、昔は記録係が紙に書いていたが、今はタブレットでスコアをつける形式になっています。終わるとプリンターとつないで出力するので手書きでなくてもいいんですけど、いまだにスコアラ―は紙の棋譜も書いています。なぜかという点、僕らが試合中によく「棋譜見せて」と言うから。そのために紙に書いてくれているんですね。

データ化される前、棋譜は手書きで二枚提出する決まりでした。一枚は関係者がコピーする用にファイルに入れ、もう一枚は将棋連盟の倉庫に永久保存。何十年にもわたる対戦の記録が保管されている千駄ヶ谷の倉庫です。

奨励会は六級で入るんですけど、記録係はすぐにできるんですよ。僕はけっこう自分から希望してやっています。中

学生の頃です。今は義務教育期間の子には基本的にはさせていませんが、その頃は中学生でもどんだんやりなさいという方針だったんです。

やっぱり記録係は緊張感が凄かったですね。今はこう指したらタブレットにポンとタップするだけ、時間も自動計測してくれる。駒の動かせない所には入力できないので間違える心配ありません。昔はそれをぜんぶ符号で書いて、時計も今の手を指すのに三分かかったら三分と書いて、じゃあその前と足して合計十分、という感じで足し算も同時にやっていたんです。百八十五分+四十七分みたいなのもすべてパッとその場で計算して書いて。間違っていたら怒られるから、途中でちょっと時間が空いたら確かめ算して。終わってから「一分余分でした」とかってなっちゃったら、もう責任取れないですからね。

奨励会の頃の自分と対戦している先生とでは技量が違うので、たとえばそこで先生が一時間考えても、何を一時間考えているのかわからないんですよ。技術が上がると微妙な違いとかにいろいろ気づくようになって、その些細な違いに持ち時間を一時間使って考えている。そこ



わたなべあきら●1984年、東京都生まれ。15歳で史上4人目の中学生棋士としてプロデビューし、2004年には20歳で竜王を獲得。13年には竜王、王将、棋王を獲得し、史上8人目の三冠に。現在は名人と棋王に在位するほか、永世竜王、永世棋王の称号を得ている。著書に「勝負心」「頭脳勝負」など。妻で漫画家の伊奈めぐみによる「将棋の渡辺くん」も人気。

はプロにとっては大違いなことでも、奨励会の僕から見ると、そんなどっちでも変わらないじゃん、みたいなね。まあそれが技術の差なんですけど。だから、わからないことがわかるというか、「これは今の俺にはわからないや」ということを知ることができるといふか。

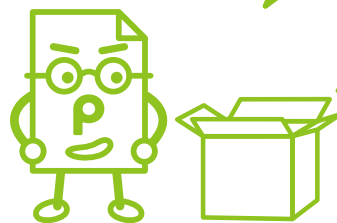
倉庫に眠っている紙の棋譜、中学の頃の自分の字はもう見ることもありません。ただ、記録係の欄に「二級 渡辺明」なんて残っていますので、たまに取材で記者に訊かれて思い出したりします。

なるべくトイレに行かないようにしていたから、水も飲まないで五時間、六時間。今考えるとすごいですよ。でも、先輩方もみんなそうしていた。その分得るものもあつたからやっていたんですよ。いろいろ便利になっていくと、そういう経験はできなくなりますがね。あの緊張感や不便さも、間違いなく自分の糧になってはいると感じます。

### ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

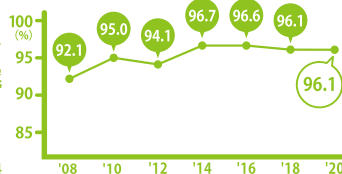
#### 段ボールは、ほぼ段ボール製。

使用済みの段ボールのほとんどが回収され、リサイクルされているんだって。なんとその割合は95%以上。つくる側と使う側、お互いの協力で高いリサイクル率が保たれているんです。さらに回収率を上げるために、つぶしやすくして畳みやすい段ボールの開発も進んでいるんだって。



#### 段ボールの回収率

資料：段ボールリサイクル協議会の調査資料



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、<http://kamitsubu.com/>「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。

今回は12月29日号です。